

せんていし 剪定枝など(焼却ごみ類)の分別

「焼却ごみ類」のうち、袋に入れずにひもでくくって出せるものは、剪定した枝木のみです。1本を長さ50cm以下、直径5cm以下にして出してください(新聞でくるむ場合は、全体を覆わず、剪定した枝木が見えるようにしてください)。葉が付いているものも収集しますが、ごみ集積所やその周辺に散乱しないよう注意してください。

●間違いが多いもの これらは指定ごみ袋に入れて出してください。



野菜(トマトや枝豆など)や、花き類(観賞用の植物全般)などの茎や葉



木製品を解体したもの



よしずなどの加工品



刈草

問 資源循環推進課(馬場町、クリーンセンター1階) ☎562-6361、FAX566-1694



歴史ギャラリー

領主より拝領した茶器「南蛮写横手急須」(草津宿本陣蔵)

No.225

史跡草津宿本陣には、江戸時代から近代までの歴史資料が1万6千点以上と、美術工芸品が約500点伝わっています。美術工芸品には、本陣の建具に絵画などをあしらう障壁画や、本陣を利用した大名から拝領した掛軸・陶磁器・漆器など、さまざまなものがみられます。

今回紹介するのは、江戸時代に草津宿を領有した膳所藩の藩主から拝領したと伝わる「南蛮写横手急須」です。箱書きに「康禎公御作」とあり、膳所藩主・本多家の12代当主である本多康禎の作とされています。大正7(1918)年の記録には、本多康禎が当本陣で小休(小休憩)した際に、拝領した康禎作のものと記されています。大福帳の記録によると康禎の当本陣利用は2度あり、そのうち天保2(1831)年6月28日のみ小休での利用であるため、この時に拝領したものではないかと考えられます。大福帳に急須拝領の旨は記されていませんが、風流人として知られる当本陣8代当主・田中七左衛門貞澄が敷地内に庵を設け隠居し、大名らと交流していた時期であるため、本作は其中で拝



▲「南蛮写横手急須」(草津宿本陣蔵)

領したのかもしれない。資料名にある「南蛮写」とは、南蛮焼(南蛮陶磁)を模したものを指します。南蛮焼は、16〜17世紀頃に南蛮貿易を通じて、中国南部や東南アジアから伝わった陶器です。釉薬をかけずに高温で焼き締める作風のもものが多く、素朴で独特な風合いが茶人に好まれました。また「横手」とは注ぎ口に対して横に取っ手がついたものを指し、日本独特の急須の形です。本作を見ると、急須の各部がそれぞれろくろで作られています。器形や厚みの調整などから、丁寧な製作がうかがえます。硬く焼き締められた深い黒茶色のきりつとした色彩でありながら、全体が両手で包み込めるほどの大きさで、注ぎ口も小ぶりであり、底のすばまった器形であるため、華奢でかわいらしい印象にも感じられます。

問 草津宿街道交流館(草津三) ☎567-0030、FAX567-0031

Kusatsu Information

いつでもどこでも「広報くさつ」



市ホームページ



ラジオえふえむ草津(FM78.5MHz)
「声の広報」



スマートフォン用アプリ

- マチイロ
- SideBooks(ちいき本棚)

市公式ソーシャルメディア



草津市メール
配信サービス

市の情報をメールで
配信するサービス



くさつチャンネル

動画や、
びわ湖放送
(BBC)の
草津スケッ
チも!



市の花
アオバナ



市の木
キンモクセイ

6月30日現在
(対前月比)

- 人口
141,926(+105)
- 世帯数
66,675世帯(+100)
- 男 71,079人(+27)
- 女 70,847人(+78)